

平成 30 年度第 3 回大船渡市総合教育会議会議録

1 日 時

平成 31 年 2 月 13 日（水） 午前 10 時 00 分から午前 10 時 30 分まで

2 場 所

大船渡市役所 第 1 会議室

3 出席者

（構成員） 市長 戸田公明、教育長 小松伸也、教育委員 千葉雅夫、教育委員 柏崎正明、
教育委員 熊谷テイ子

（事務局） 教育次長 志田 努、市民協働準備室長 遠藤和枝、生涯学習課長 熊谷善男、
学校教育課長 市村康之、生涯学習課長補佐 新沼裕一

4 報 告

- (1) 生涯学習部門の市長部局への移管について

5 意見交換

- (1) 地区と行政との協働推進に係る当面の事務執行体制等について

6 会議の概要

（生涯学習課長）

- ・ただいまから平成 30 年度第 2 回大船渡市総合教育会議を開会する。開会にあたり、戸田市長からあいさつをお願いする。

（市長）

- ・お忙しい中お集まりいただき、また、日頃の市政へのご理解とご協力に感謝する。本日は、前回の総合教育会議で意見交換させていただいた「生涯学習部門の市長部局への移管について」、市議会での議論を踏まえ移管を見送ることとした経緯について説明するとともに、当面の執行体制のあり方について意見交換したいと考えている。短い時間ではあるが教育委員からの忌憚のないご意見を賜りたい。

（生涯学習課長）

- ・次第 3 報告、(1) 生涯学習部門の市長部局への移管について、市長から説明をお願いする。

（市長）

- ・去る 1 月 17 日、当総合教育会議において、地区と行政の協働の推進を図るため、生涯学習部門の市長部局への移管について意見交換をさせていただいた。その際には、教育行政を進めるうえで学校教育と社会教育は車の両輪であることから、生涯学習部門の市長部局への移管後、教育委員会と（仮称）協働まちづくり部との緊密な連携に配慮してほしい、また、市民への丁寧な説明をお願いしたいといった意見をいただきながら、生涯学習部門の市長部局への移管を進めることを確認し合ったところである。

- ・その後、1月28日に開かれた市議会全員協議会において、平成31年度の（仮称）協働まちづくり部の創設、今後における地区と行政の協働の方向性や段階的な地区運営組織の結成などについて議員各位に説明した。

当日は8人の議員が発言し、既に報道のとおり、各議員から、地区運営組織の結成の動きなどに関し、市民・議会での十分な議論を求める慎重論が相次ぎ、新たな部の創設についても、部設置の意義を問う声や市民の機運の醸成が先ではないかという意見が多く出された。

- ・こうした状況を踏まえ、熟慮の末、議員各位をはじめ、市民の方々からご理解、ご協力をいただくには、相応の時間が必要と判断するに至った。

したがって、平成31年度当初において生涯学習部門の市長部局への移管を含めた行政組織体制の見直しを見送ることとし、当面、現行の組織体制のもとで、関係部署間の連携を密にしながら、時代に対応した地区と行政とのあり方について方向性を見定めていくことにした。

(生涯学習課長)

- ・ただ今の報告について、質問・意見等を求める。

(委員)

- ・特になし。

(生涯学習課長)

- ・次第4意見交換に入る。(1) 地区と行政との協働推進に係る当面の事務執行体制等について、教育次長から説明をお願いします。

(教育次長)

- ・(1) 地区と行政との協働推進に係る当面の事務執行体制等について、資料に基づき説明する。

(生涯学習課長)

- ・ただ今の報告について、質問・意見等を求める。

(市長)

- ・1月17日に皆さんにお集まりいただき説明したが、この件については、ここ数年間、様々な事例を参考にし、情報収集しながら検討してきた。

(千葉委員)

- ・市長のお話を聞いて、いたし方のないことなのかもしれない。当面の事務執行体制については現行どおりとのことだが、市民協働準備室が教育委員会との連携を大事にしながら進めていく考え方はよいことだと思う。
- ・新たな地区運営組織、協働まちづくり等については、まだまだ住民の理解が不十分であり、関心も高まっておらず、機運の醸成が極めて大事であり、その取組を大事に進めてほしい。教育委員会との連携をよろしくお願いしたい。

(柏崎委員)

- ・震災後の地区公民館または地域公民館の役割を振り返ってみると、大船渡の地域力はすばらしいものだと思う。支援者への心温まる対応や、全国各地からのボランティアの受入体制など公民館の果たしてきた役割は大きいと思われる。反面、館長や主事の負担も大きくなってきたところでもある。その課題を解決していくためには、人的支援体制を整えていくことが大事だと思う。

(熊谷委員)

- ・地区と行政との協働推進については、市民協働準備室ができた時点でそれなりに理解されていたと思いながらも、地域住民には理解されていない部分も多くある。まちの中心部は活性化されて、ある程度受け入れやすいところがあるかとは思いますが、離れたところになると高齢化率も高く、年々活躍できなくなってくるところが増えてくると思う。地域の方々が分かりやすいように状況を説明いただくことが大切かと思われる。

(千葉委員)

- ・今後、各地区に入って説明する際に、先日、蛸ノ浦地区から要請があつて室長が説明されたようだが、様々な機会を利用して取組を説明していくことが重要かと思われる。今後の進め方について、具体的に考えていることはあるか。

(市民協働準備室長)

- ・まずは、各地区の館長・主事とよく懇談をし、どのような説明がよいのか、地区ごとに考えていきたい。また、先進地や地域づくりのノウハウを持っている方をお呼びし、直接説明いただける機会を設けたい。

(千葉委員)

- ・議員の方々にも、地区ごとの説明に来ていただいて地区と一緒に考えてもらえるような機会になることが大事かと思われる。

(市長)

- ・高齢化社会と人口減少は容赦なくやってくる。来年から急に厳しくなるわけではないが、じわりと効いてくるので、そういった点をうまく説明できるようにしなければならないと考えている。

(柏崎委員)

- ・少子高齢化が進む中、いつでもどこでも誰でもが楽しく主体的に学べる生涯学習社会を築いていくことが大切である。そのためには、市民協働推進室、生涯学習課、中央公民館が一体となって様々な学習の機会を提供していくことが求められてくる。そこで学んだ成果を一つでも地域づくりに生かしていくことができれば、地域活性化に繋がり、地域住民の主体的なまちづくりに発展していくのではないかとと思われる。
- ・地域の特性を生かした地域づくりを地域住民が主体となって進めていく時に、行政がサポートし連携していけば、まさに地区と行政とが一体となったすばらしいまちづくりに向かっていくのではないか。

(生涯学習課長)

- ・全体を通しての意見等はないか。

(千葉委員)

- ・猪川町に住んでおり、地域助け合い協議会については大分進んできたと感じられる。地域の高齢者が集まり、お茶飲み会をすることが各地域に広がり、盛んに活動されている。こういった活動が今後のまちづくりに繋がっていけばよいと感じている。

(市長)

- ・地区運営組織というのは、地域助け合い協議会が一般化したものなのではないかと考えている。地域助け合い協議会は福祉の概念から組織されている。実はそれが地域づくりの根本的なところであり、高齢者だけの助け合いではなく、若い人も助け合えるように、もっと一般化されればと考えている。

- ・ 3年前から始まった協議会で、当時は何をするのかと言われていたが、浸透してきた。我々の社会は、ある程度豊かで、すばらしいところが多い。しかし生産性を高めることを意識した地域づくりが必要になってきており、難しい課題である。

(生涯学習課長)

- ・ ほかに意見がないことを確認する。貴重なご意見に感謝する。

(生涯学習課長)

- ・ 以上をもって平成 30 年度第 3 回総合教育会議を終了する。